



漢方セミナー in 大熊町



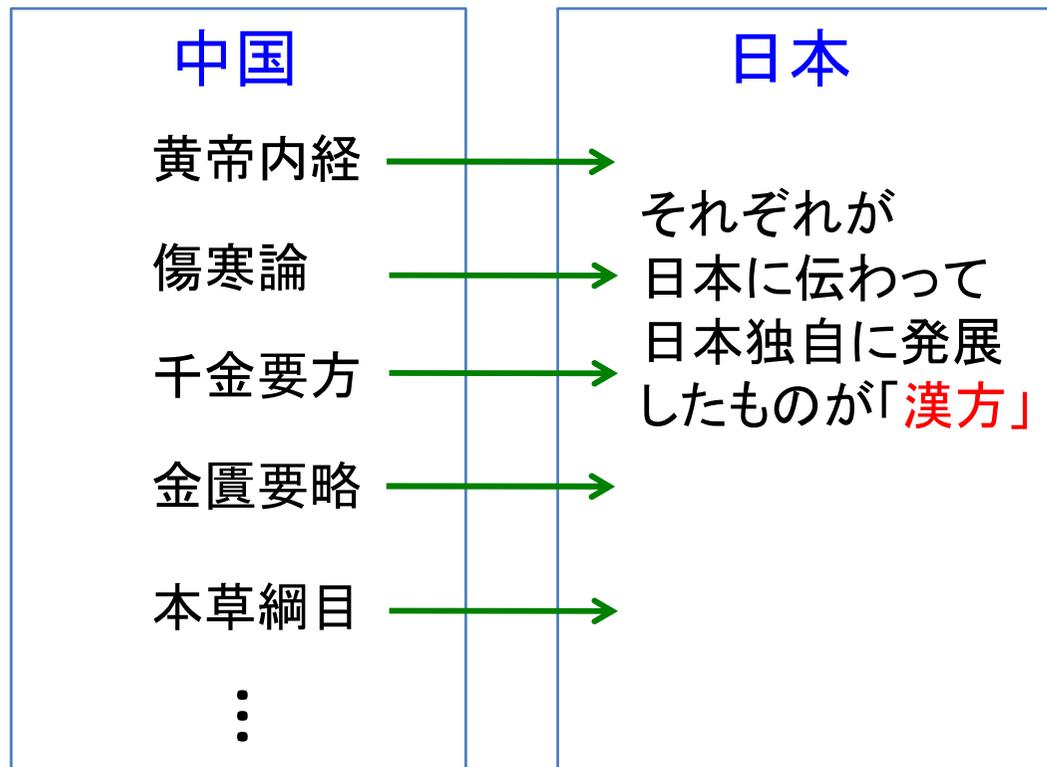
運龍堂キャラクター：龍ボボ

もりのみやこのかんぼうやっきょく・うんりゅうどう
杜の都の漢方薬局
運龍堂

プロフィール(佐藤貴繁)



漢方薬は日本独自の言葉！



漢方とは、**日本独自の単語**。
江戸時代に新しく入って来た
「蘭学」と区別するため、
従来の医療を「漢方」と呼んだ。

↓
戦後、歴代の医学書を体系化したものが「**中医学**」

発祥は中国の「中薬」にあり、長い歴史で確立されてきた「中医学」の理念を日本の風土に合わせ、さらに独自に発展させたものが漢方薬である。従って、中国で使用されている「中薬」と日本の「漢方薬」には共通する部分と異なる部分がある。

約1500年の歴史をもつ日本漢方

※600年～:遣隋使で中国の医療が日本に伝わり始める

※1639年～:鎖国により、日本のオリジナル色がより強まる

※1700年ごろ(江戸後期):オランダより蘭学が入ってきて、「漢方」の単語が生まれる

伝統医療の源流が、中国の漢の時代(紀元前202年～後220)に成立したことに因んでいる

※1883年:明治政府の指針で、西洋医学の普及が推進され、漢方が衰退

※1910年:漢方医学者である和田啓十郎の著者である「医界の鉄椎(てっつい)」により、漢方が見直され、漢方の復興

医界の鉄椎は、現代の医学が専門の分化が行き過ぎることで、統合的な理解が難しくなっていることを訴え、さらに漢方こそが統合的治療の根幹に貢献できることを主張した医療論。

～生薬生産量に関する数字～

◎国内で使用されている生薬のうち

77%が中国からの輸入。国産は約10%

◎中国が日本に輸出している割合は、

生産量全体のわずか0.5%

◎中国における中薬の市場は

2015年 15兆円 → 2020年 26兆円

◎中国における生薬は高騰しており、

2006年 → 2016年で約2.5倍に上昇

※伝統薬の製造に関する特許の数は、
中国より日本の方が多い!!

漢方薬の考え方

★人間も自然の一部

環境や季節によって、処方が変わる。

例) 暑ければ熱を抜き、寒ければ熱を加える傾向。

湿度が高ければ、余計な水を抜き、乾燥していれば陰を補う傾向。

★「流」や「バランス」が大切

気・血・水の流れや、量的なバランスを整えるのが大きな目的。

★「感情」も病気の原因となる

怒・喜・思・憂・悲・恐・驚を『七情』とよび、これらの感情が過度であったり、長期間続いたりするとさまざまな病気を引き起こす。

★「個人の体質」と根本の原因が重要

見た目の症状が同じでも個人の体質や根本の原因によって処方は大きく変わる。

漢方の究極の目的、それは「流」を正す事

外因（気候など）、感情の乱れ、不摂生など



気（熱）・血・水の流^れが乱れる



気（熱）・血・水の流^れを整え、発症予防

※気＝体を構成する物質、体を動かすエネルギー、熱エネルギー

※血＝血液（血液の働きを含めて「血」という。汚れたものは血毒）

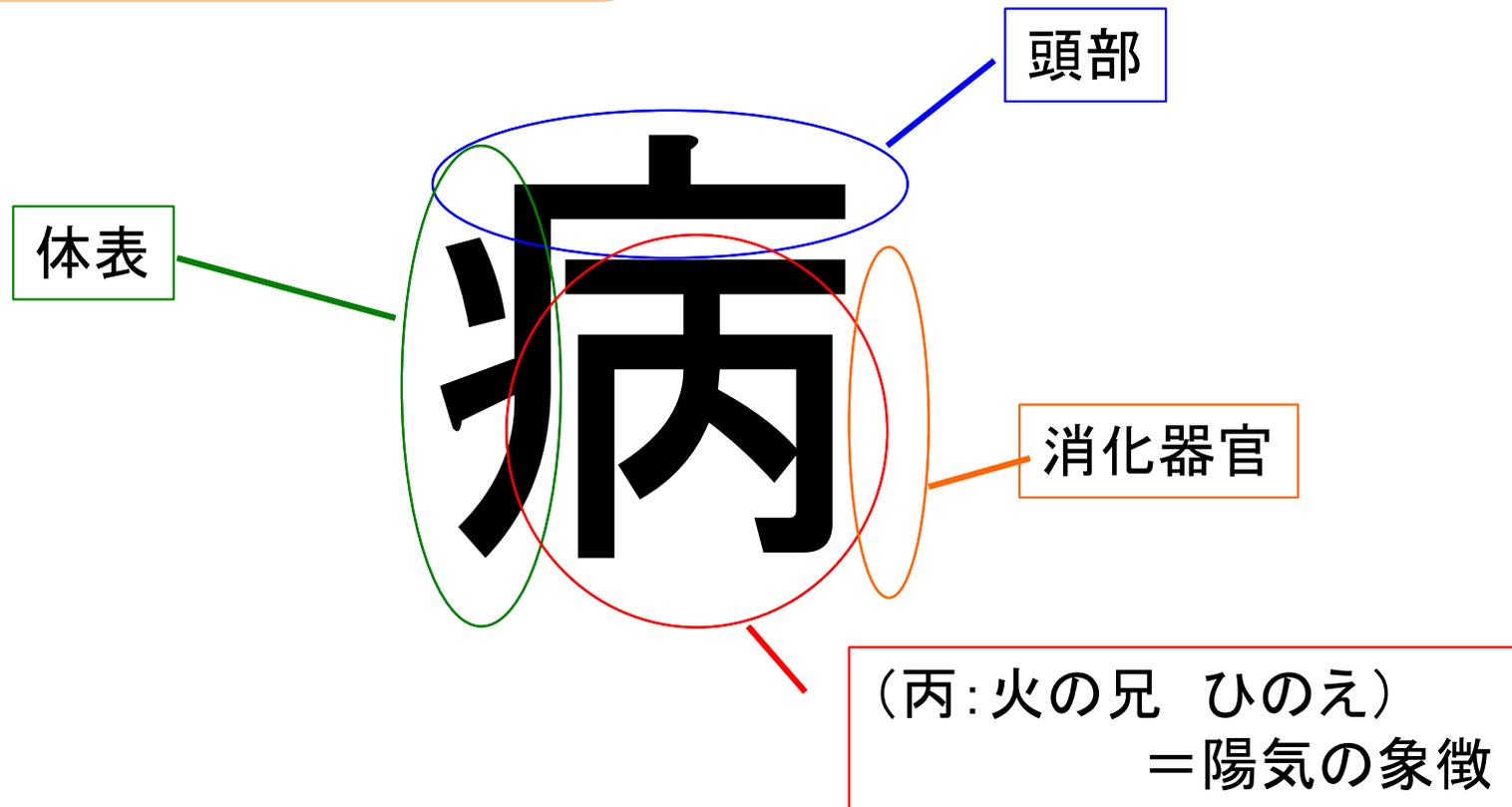
※水＝体液全般（体に必要な液体のうち赤くないもの、余計なものは水毒）

養生では、季節に合わせた対策、感情のコントロール、生活習慣に気をつけ、普段から気（熱）・血・水の流^れを確認することが大切。 6

漢方の究極の目的、それは「流」を正す事

気(熱)の流れ
血の流れ
水の流れ

特に気(熱)の流れは、重要
いずれが滞っても病気になる



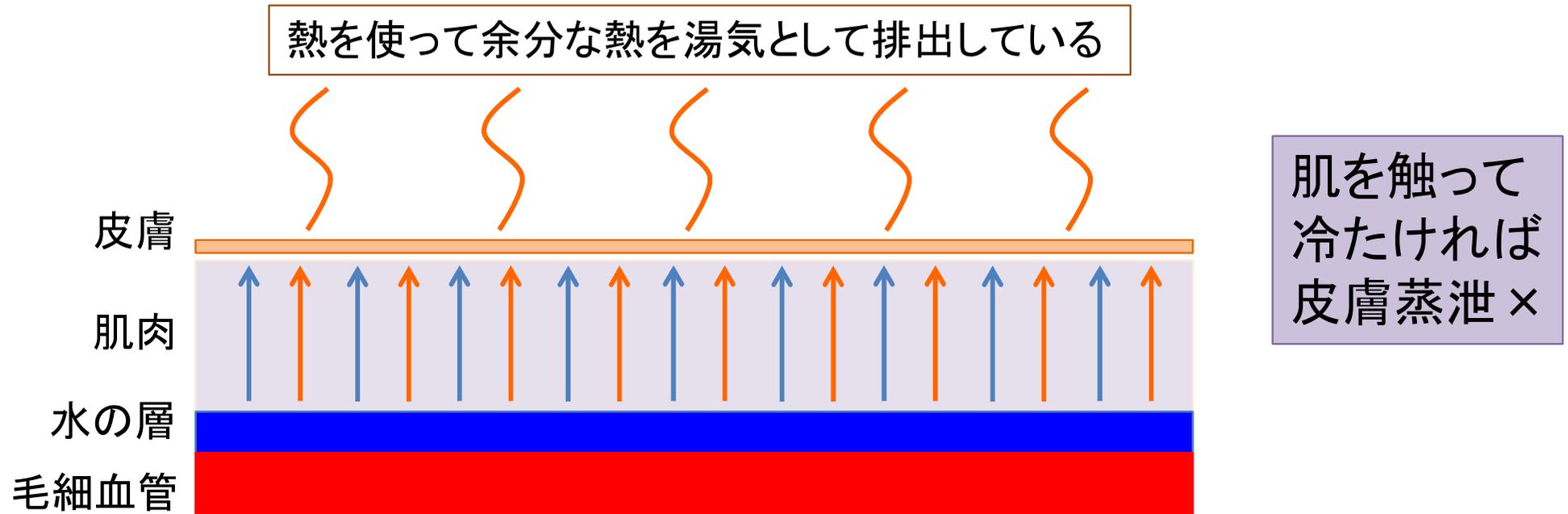
すなわち「病」とは、体内にこもった熱が悪さをしている状態！ 7

皮膚蒸泄とは

・ヒトは、全身の代謝熱の1/2～2/3を皮膚表面から水分を気化する事で排出している(皮膚蒸泄)。

→常にバランス良く「やかんの水」をわかして、湯気として大半のエネルギーを捨てている！

・残りの代謝熱は主に、呼気、小便、大便から排熱している。



→肌が乱れると、「病」になりやすくなる！！

方劑(ほうざい) VS 生薬(しょうやく)

※方劑:薬の名前(例:葛根湯)

(料理に例えると、カレーライスという料理名)

※生薬:薬を作る材料

(料理に例えると、カレーライスの具材)

葛根(かっこん)



桂皮(けいひ)



芍薬(しゃくやく)



大枣(たいそう)



生姜(しょうきょう)



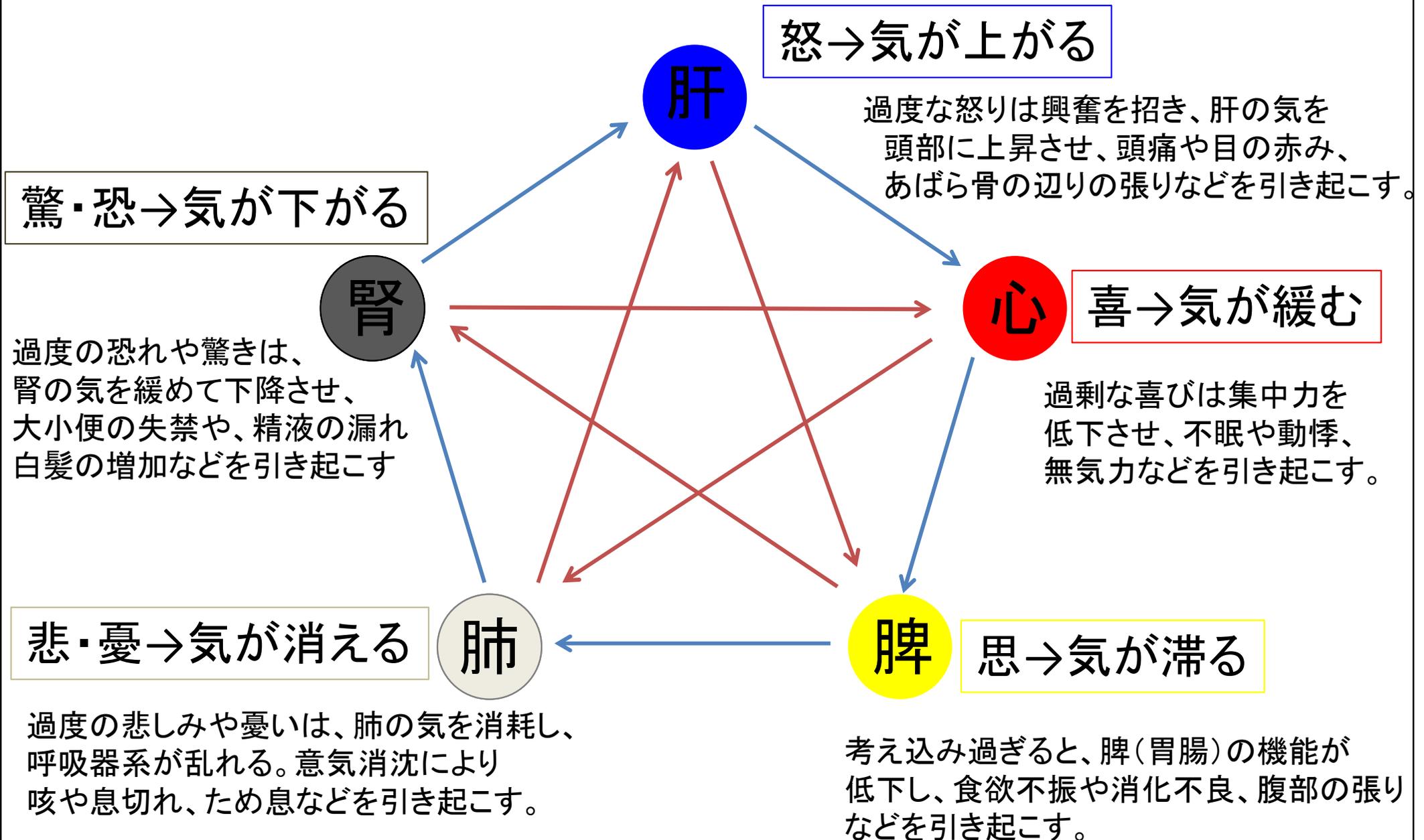
甘草(かんそう)



麻黄(まおう)



★「感情」も病気の原因となる



★「個人の体質」と根本の原因が重要

同病異治(どうびょういち):

同じ病名でも、個人の状態によって、ちがう漢方薬を使って治療する。

例: 水の滞りによる頭痛→水の滞りを治療する。

血流悪化による頭痛→血流を改善する。

「頭痛であれば、〇〇」というのは、同病同治(どうびょうどうち)

異病同治(いびょうどうち):

異なる病名でも、同じ漢方薬を使って治療する。

例: 「水の滞りによる「眩暈」と「頭痛」

症状は異なるけど、

治療方針は同じ場合がある。

漢方薬VS西洋薬

漢方薬

毒性が無いのが良い薬

体全体を考える。

「流」を作る。

交通事故が起きないように
流れをスムーズにしたり、
事故処理作業後の
流れを回復させる。

西洋薬

鋭く効くのが良い薬

原因の局所を考える。

特定の反応を
ブロック or 加速

交通事故が起きた時に、
いったん車の流れを規制する。

発病するかどうかは、正気 VS 邪気の結果

正気(せいき): 正常な機能、抵抗力、自然治癒力
邪気(じゃき): 様々な発病要因

漢方で行うのは、正気を補って、邪気を除く

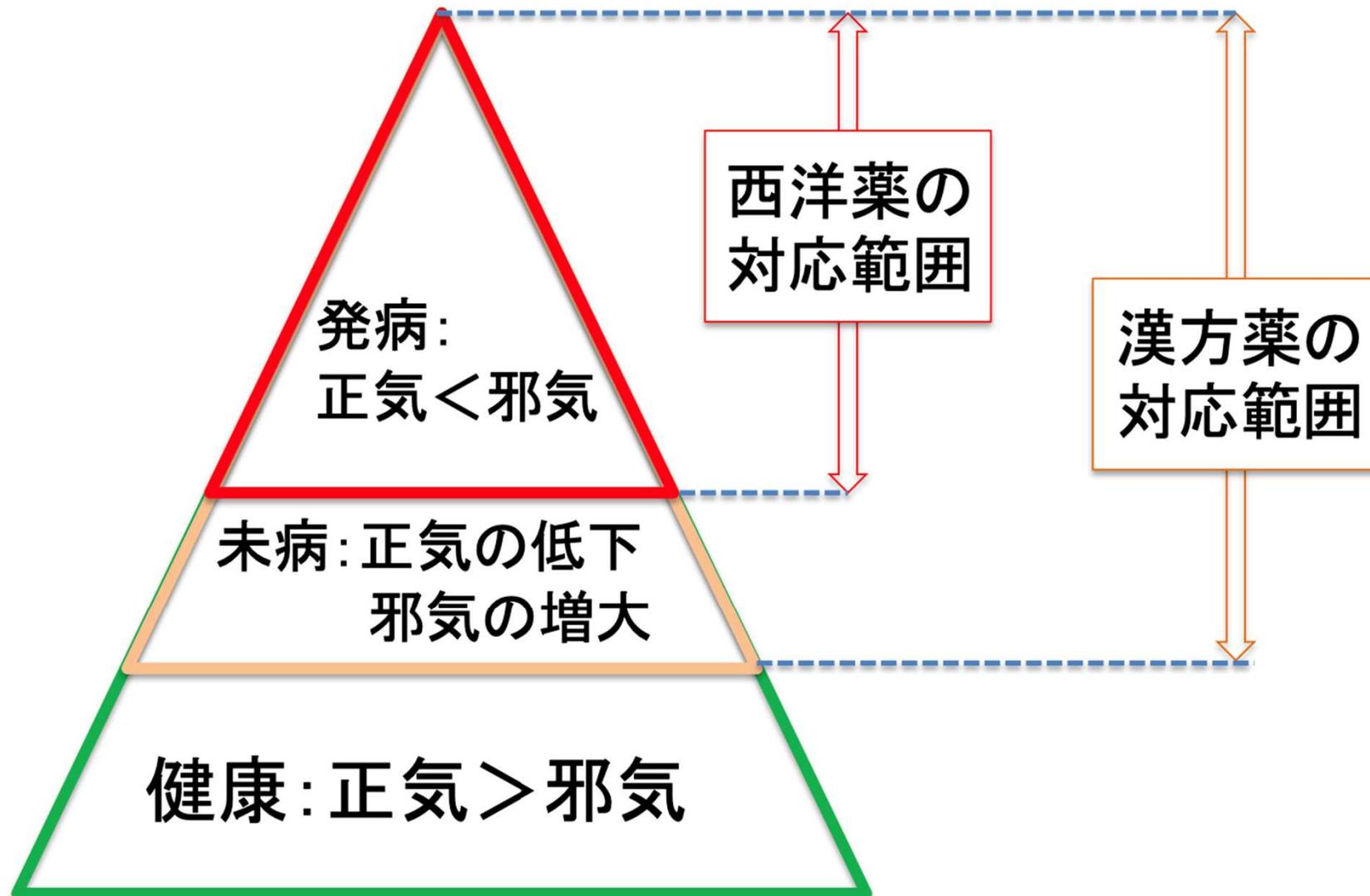
邪気の種類

- ① 外因(外邪)
: 風邪、寒邪、暑邪、湿邪、燥邪、熱邪など
- ② 形ある実体(体内に入った発病要因)
: 瘀血(血流悪化)、水毒(水分代謝低下)など
- ③ 形なき実体(体にとってマイナス要因となるもの)
: 過剰な七情、熱や気の滞りなど

体の内側からダメージを受けるのが怖いところ

西洋薬と漢方薬の対応範囲

正気<邪気となると、発病する



最後に、、認知症予防は脳血流の確保！

「朝鮮人参＋松葉＋熊笹」は
強化筋肉にも！

